

山田みやこの活動報告

令和6年9月28日（土）

ひきこもりVOICSTATION全国キャラバンin栃木

テーマ 今、私たちにできること

～ひきこもり当事者の家族に対して～

全国6都市で開催（その内今回は宇都宮市にて開催）

本県においてもひきこもり状態にある方が増加している。そこで、誰もが生きやすい社会についてみんなで考えていく。

厚生労働省が提供する情報プラットフォームである「ひきこもりVOICESTAITON」が、ひきこもり当事者、経験者の様々な声を伝え、ひきこもり当事者への誤解や偏見をなくしていくために、全国キャラバンとして、全国を6ブロックに分け、会場とオンラインのハイブリット形式で開催された。

パネルディスカッションでは、

斎藤三枝子さん（栃木県子ども若者ひきこもり総合そうだセンター副センター長）

ひきこもり支援は伴走支援、不可欠な連携。当事者の声と想いを尊重し、気持ちに寄り添うことが大切。

土橋優平さん（NPO法人キーデザイン代表理事）

運営するフリースクールの活動と無料LINE相談窓口「お母さんのほけんしつ」と、子どもとその家族の支援に力を入れている

中尾貞人さん（一般社団法人コブル代表理事）

ひきこもり・精神障害・発達障害のある方のサポートをおこなっている。国際協力としてフェアトレード珈琲豆の販売を行い、カフェはひきこもりがちなひとの就労体験の場としている。

吉成勇一さん（NPO法人なんとなくのにお理事）

自分のひきこもり経験から（高校生の時）家族の関わりやサポートにより。親の会や居場所につながり、少しずつ社会参加への道が開け、就労支援での出会いにより、ボランティア活動を通じて、現在勤務している法人とつながった。

ワークショップ

参加された方々がグループに分かれ、立場が異なる方と交流し、新しい気付きやつながりを得る時間となった。

※息の長い寄り添った当事者中心の対応など、引きこもり支援の難しさを目の当たりに感じた。しかし、長いトンネルを抜け出すきっかけはある。